

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

令和8年7月
(2026年)

財政総務常任委員会記録

会議日 7月8日(水)

吹田市議会

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

○日 時

令和 8 年（2026年） 7 月 8 日（水）

開会 午前10時 1 分 閉会 午前11時 3 分

○場 所

第 1 委員会室

○出席委員

委 員 長	竹 村 博 之	副 委 員 長	乾 詮
委 員	梶 川 文 代	委 員	久 保 直 子
委 員	山 根 建 人	委 員	江 口 礼 四 郎
委 員	浜 川 剛	委 員	泉 井 智 弘

○欠席委員

な し

○委員外委員

議 員 五 十 川 有 香

○説明のため出席した者（部長級以上の職員及び発言した職員を記載）

〔行政経営部〕

部 長	北 澤 直 子	次 長	吉 川 祐 輝
企画財政室参事	河 内 僚 一	企画財政室主幹	小 柏 円

○議会事務局出席職員

主 幹	水 落 康 介	主 査	奥 野 太 一
書 記	中 川 晃 希		

○付議事件

所管事項に関する事務調査（行政管理、行財政改革）について

（署名又は押印）委員長

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

(午前10時1分 開会)

○**竹村博之委員長** ただいまから、財政総務常任委員会を開会し、本日の会議を開きます。

これより議事に入ります。



○**竹村博之委員長** 所管事項に関する事務調査（行政管理、行財政改革）についてを議題とします。

令和8年5月28日開催の議会運営委員会において、本委員会第5次総合計画策定の進捗状況等の報告を受け、計画の具体化の過程を継続的にチェックすることを決定しています。

また、本件の調査に当たっては、委員外議員の発言を認めることや、理事者からの報告を受ける場であることを踏まえ、質疑時間に配慮することを事前に委員間で確認しています。

それでは、理事者から資料が提出されておりますので、理事者の報告を受けます。

○**北澤直子行政経営部長** （資料説明）

○**小柏 円企画財政室主幹** （資料説明）

○**竹村博之委員長** 報告が終わりました。

質問があれば、受けることにします。

○**浜川 剛委員** 7ページ目の基本的事項での計画の期間であります基本計画10年、令和11年度から令和20年度の、必要に応じて中間見直しを実施と。第4次の中でも、いろんな想定をしてなかったコロナであったりとか、経済状況とかであった中で、必要に応じてという、ざっくりとしたというよりも、人口推計一つにしても、そこから何パーセントが増えたり減ったりとかした場合は見直すとか、そういったことが起こったら見直しをするみたいなことはあるんですか。

○**小柏 円企画財政室主幹** 現状では、その数値的な基準というものは今は持っておらないんですけれども、ただ一定、総合計画10年ということで中・長期的な視点からの計画ということで、基本的には10年計画なのかなというふうには思ってるんですけど、やっぱり過去を振り返るとコロナであったりとか、吹田市が意向を持ってやったことですけど中核市の移行であったりとか、そういったところは本当に大

きいことだろうということで、そういうことが起これば見直しをするということなんですけれども、ただ本当に予期せぬことがここ最近ずっと起こりますので、必要に応じて見直しをするという文言は入れさせていただいてるところでございます。

○**浜川 剛委員** 何が起こるか分からないので、見直しするというのは大事だと思うんですけど、何か一つの基準みたいなのを改めて持ってはるのかなってことで確認をさせていただいたところなんです。

本当に10年という長いスパンでなければいけないのか。今までも10年なので、今回も10年なのですよという、まずそれこそこの見直しのほうにも入ってきますけども、やっぱり今の時代って10年後に、今はAIも使われるようになってきたりとかっていう、10年後が全く予想が難しい中なので、もっとこれを短めにしておくとか。そうすると頻度が短くなるので大変やというところもあるかもしれないんですけど、その辺は考えられたりはしたんですか。

○**小柏 円企画財政室主幹** 計画期間については、確固たる正解というものがなくて、担当としてもいろいろ考えてはいたんですけども、やはり中・長期的な視点が必要だということで、10年というのはいいのかなというところと、それぞれの分野で個別計画を持ってまして、その計画が大体3年であったりとか、そういったスパンでされてるところがあるので最上位計画ということもありますし、第4次総計で10年だったっていうところもありますし、そういった複数の要因を含めて10年というふうに、今回提案をさせていただいてるものです。

○**浜川 剛委員** 分かりました。

これはもう意見になるんですけども、その10年という期間での計画なので、あまり細かくやりすぎると、本当にそれによって逆に何か首を絞めてしまうところもあるかもしれないんで、本当にもう骨格の幹の部分だけを計画としてつくっていくという方向性でやっていただけたらいいんじゃないかなと、意見として伝えておくだけにしておきます。

○**山根建人委員** まず第4次総合計画の改訂を令和6年に行ってるんで、おそらくこれがベースになる、まだ1年ぐらいしか経ってないので、その改訂を踏

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

まえるということだと思うんですけど、この改訂版の
ところの、こんなまちにしたいという23、24ページ
の概要版のところ、数字で見るとどんなまちとい
うことで目標なんかも書いてまして、これは第5次
総合計画に一応踏襲というか、こういう目指すまち、
基本の目標みたいなのは踏襲されるということによ
ろしいんですか。

○小柏 円企画財政室主幹 これがそのまま第5次総
計に載るということではないんですけれども、一定
こういった設定をしていたということも踏まえて、
策定を進めていく予定です。

○山根建人委員 ベースになるのではないかなという
ふうに思うんですけど、全く変更されると、改訂
をしているのに、審議会の中でどういう議論にな
るか分かりませんが、もし市長とかが替わると、ま
たちちょっと変わってくるのかなと思いますけど、こ
れをベースに審議が行われていくというふうに思っ
てるんですけど。

頂いた資料の中で、策定の進め方として、総合計
画の審議会の11ページです。審議会のメンバーとか、
どういう方を招集するかとか選ぶとかが書いてある
んですけど、その前の10ページで、多様な主体
の参画と分かりやすい計画づくりというところで、
ワークショップ等の開催で子供とか若者の意見の表
明の仕組みのガイドラインを含めた意見聴取という
ふうにも書かれてますけど、吹田市がよくしてるの
がアンケートとか、そういうのなんですけども、
やっぱり審議会のところにこういった若者を、例え
ば高校生とか大学生なんかの若者の意見を直接反映
をさせるために入れていくという、そういうような、
構想というか考えはあるんでしょうか。

○河内僚一企画財政室参事 審議会のメンバーに若者
を入れてはどうかという御質問だったかと思います。

第4次の中間見直しのときにも、市民公募で4名
ほど審議会に参加をしていただいているんですけども、
比較的若い方を入れるという考えを持って、市民公
募委員の選定をしておりますので、第5次につきま
しては、詳細は今後検討はしていくんですけども、
その考えを踏襲していきたいと考えております。

○山根建人委員 直接アンケートなんかを取るのもい

いとは思いますが、ワークショップとかに来て
もらう仕掛けというのにも必要やと思うんですけど、
審議会の中にそういう方々を直接入れて、じかに話
し合う機会を持っていたらなと思うんです。

あと、この審議会のメンバーとして、女性の比率
はどういうふうに考えておられますか。

○河内僚一企画財政室参事 審議会の女性の比率でご
ざいますけども、やはり男性、女性で多様な御意見
を頂けたらと考えておりますので、比率が具体的に
何パーセントというのは明確には持っていない
んですけども、女性にも参加していただけるように、
審議会のメンバー構成については考えていきたいと
考えております。

○山根建人委員 この第4次総合計画を作成したとき
の女性比率はどれぐらいに分かりますか。

○小柏 円企画財政室主幹 学識経験者でいいますと
8人中4名の方、市民委員の方でいいますと4名中
2名の方と、市内の公共的団体の代表者の方でい
いますと7名中1名の方、行政機関の職員の方でい
いますと、ゼロ名となっております。

です、学識経験者と市民公募委員の方でい
ますとほぼ半分となっております。

○山根建人委員 公共機関のところとか職員がゼロっ
ていうのもね、男性ばかりが出てたということだ
すね。それは、ちょっと今の吹田市が目指してるそ
ういう比率とも、部長が入るのかちょっと分からな
いんですけど部長は入らないかな。学識というか審議会
の中には、答申するほうやからね。

そういう意味では、より比率を、学識と市民のと
ころはもう半分入っていただいているということで、
それはそれでいいと思うんですけど、そういう公共
機関とか職員も含めて、より比率を高めてもらうよ
うに要望をしておきます。

最後にもう1点、人口の比率、数というのが、吹
田市はどんどん人口が増えてて、第4次総合計画、
これ10年前に私も特別委員会に入って議論した覚え
があるんですけども、そのときは物すごく吹田市は
もう減るんだというような考えの下で総合計画とか
公共施設の在り方とか、そういうので進められたん
です、公立保育園の在り方とかも含めてね。

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

でも結果、吹田市が予想してた人口統計でも大きくかけ離れて、今後も10年間ぐらいまだ伸びるといふふうにも推定されているところなので、それは民間人口推計とか、民間のところとかにも推計をお願いをするというふうにするんですけども。この改訂版で掲げたように、やっぱりゼロ歳から14歳まで人口の割合が13%になることを目指しますとか、そういうふうにやっぱり住みやすいまちで、一定人口も増えるというようなことを目指してるので、人口推計だけに目を取られて吹田の10年、20年の中・長期の計画をつくっていくっていうのは、過去の第4次総合計画の経緯から、そこはもっと慎重にやるべきなんじゃないかなというふうに考えてるんですけども、その点は今の時点でどういうふうに考えてるか、何か市として考えはありますか。

○吉川祐輝行政経営部次長 人口推計で一番難しいところでございます10年の策定時につくったものが、多分1万人ぐらい今ずれてる形にはなってるかとは思います。

どうしても全国的な傾向等を確認した中で推計してしまいますと、場合によっては本市の人口がたちまち減るような推計になってしまうこともありますので、おっしゃっていただいたように他市で増えている事例とかも勘案しながら、事業者と一緒に検討を進めていきたいというふうに考えております。

○山根建人委員 やっぱり今現在でも減ってる地域もあるんですけど、ものすごく増える地域とか、ここでは子育て、保育園に入れるのとか小学生の学童とかも物すごく課題として上がってますよね。そういう意味では、やっぱり今現在と将来の吹田市がゼロから14歳までの子供たちも過ごしやすい、やっぱり吹田で子育てしようというような方々を迎え入れていくっていう像を描いてるので、その先でその子供たちが成人しても、やっぱりいい街やなと思って住んでもらえるというようなまちを目指してるというふうに思いますので、その点も加味して、計画案の策定とか審議の中でも生かしていただきたいなというふうに思います。

置いときます。

○江口礼四郎委員 今、質疑を聞いてて思ったんすけ

ど、作業部会でそういった細かく審議される、決めていかれると思うんですけど、作業部会でどれぐらいの数を考えてるんですか。

○河内僚一企画財政室参事 第5次総計の作業部会の回数についてはこれから詳細を詰めていくんですけども、第4次の策定のときのを参考に御報告させていただきますと、作業部会としまして延べ約60回ほど開催をしております、庁内で十分な議論を進めた上で、総合計画の策定を進めて参りたいと考えております。

○江口礼四郎委員 例えば、その部で分けて、専門的な審議をしていくのか、それともそれぞれの今の60回の回数それぞれに内容が異なるなり、入る方々が変わるなりとされるということですか。

○吉川祐輝行政経営部次長 前回、第4次総計の策定時には6の作業部会を設置させていただきまして、そのときは例えば第1作業部会が行政経営のことだったり、第2が人権平和・文化、地域経済・都市魅力を議論する場であったりっていうことで、それぞれ対応する所管から職員を出していただいて議論していただくという形になります。

○江口礼四郎委員 分かりました。またこれから決まるということになると言われてますので、しっかりまた注視していきたいと思います。お願いします。

○久保直子委員 改選期とずれているというところで、常に10年というのと、4年に1回の改選期というのがずれてるのかなと思うんですが、この計画に当たり、市長の意図というのは入っておられると思うんですけども、市長がこれまで替わったときに、またその計画を見直すというか、改めたというようなことがこれまであったのか。それがまた1年間スタートして、1年後に見直すことになったことで負担になったことがあったのかどうか、そういったことを聞かせていただきたいです。

○小柏 円企画財政室主幹 市長任期に合わせて改訂をしたという実績はございません。ただ、前回の第4次総計を策定したときには、第3次総計の期間がまだ終わってはいなかったんですけども、その間いろいろな変化があって、大阪府北部地震であったりとかそういうところもあったので、前倒しをして

第4次総計の策定をしたという実績はございます。

○梶川文代委員 先ほど、作業部会は6部会やったってことやねんけど、中間見直しのときは8部会やったやんな。その辺り、正しくお答えをしたほうがいいんで指摘しておきます。

頂いている資料で、まず8ページに、第4次総計策定以降に生じた課題って、どんな課題があるっていうふうに認識してるんでしょうか。

○小柏 円企画財政室主幹 課題の抽出の具体的などころについては、今後の作業にはなるんですけども、今回の資料でいう4ページ目の策定の背景というところにもお示しをしておりますとおり、社会状況として様々な変化があるといったようなところを踏まえて、本市に当てはめた形で、どういった課題があるかというところを抽出していくという今後の作業になるかと思います。

○梶川文代委員 新たな時代の潮流というのもあんなけど、これはやっぱりデジタル化とかそういうのを指して言うてるっていうことでもいいんでしょうか。

○吉川祐輝行政経営部次長 おっしゃるとおりで、特にAIとかの台頭というのが目まぐるしく、どんどん出てきますので、そういったものの対応というところで想定するものでございます。

○梶川文代委員 分かりました。

次に、9ページ目なんですけども、例えばこれは取組例としてこう書いてある、財政計画とか公共施設の最適化とかって書いてあんなけど、例えば公共施設の最適化なんかは、今回の今ある計画全部やろうと思ったら4,000億円やからね、だからどだい可能なものを、またこれ変えていくっていうことなんでしょうか。取組例として書いてはるのは。

○吉川祐輝行政経営部次長 4,000億円という数字が出てきておりますので、そういったことも念頭に置きながらここに取組例とお示しさせていただけるものにつきましては、全庁横断的に個々の施策、政策に対してだけでなく、横断的に必要になってくるような視点というところで書かせていただいております。

おっしゃってるように、公共施設数もかなり高額な金額がかかってくるというのは承知してる場所

ではございますので、そういったことも、今後、大きな流れとして、公共施設の在り方等も検討していくことは必要になってくるのかなというところで、このポイントに掲げさせていただいてるところでございませう。

○梶川文代委員 公共施設の最適化以外にもひもづいてるいろんな計画あるんやけど、実際、現総計とか中間見直しと全く別の新たな計画がぽこぽこできたりとか、全然一貫してないっていうか、整合性もないみたいな形になってるんやけど、そういったものも整理する機会であってもいいのかなとは思うんで、その辺りをしっかりと見直していつてもらえたらなと思います。全然関係ないんがいっぱいできてから、その辺りチェックをお願いしときたいと思います。

それと10ページに多様な主体ってあんなけど、どういうことで多様な主体なんですか。その意味が分かりますか。多様なとは何を意味するのか。

○小柏 円企画財政室主幹 まず、属性というところはあるかと思ひます。性別であったり、年齢であったり、いろいろな属性というところがありますのと、あとは比較的意见をはっきりおっしゃっていただける方と、あと普段はあまりもう意見を言わずに、さらっと流れてしまうといったような、普段、御意見をなかなか頂けないような方についても、今回、プッシュ型の意見聴取というふうに書かせていただいておりますけれども、そういった形で意見を頂きに行くっていうようなところも考えてますので、そういった点でいろいろな面で多様というふうに表現をさせていただきます。

○梶川文代委員 いわゆるサイレントマジョリティーをなくしていくっていう方向というのは、ある程度評価して認識しました。ただ、これをどうくみ上げていかっていうところと、あとはやっぱり子供とか若者、特に子供の意見や何かをどう聴取していくのがすごく気になるんです。だから、どういう仕組みとガイドラインなのか。あと、11ページにも審議会の委員構成とかで先ほど山根委員の質問とかでもありましたけど、公募市民が4名っていうのも少ないのかなと。さっきも言うてたように、性別とか

年齢とかっていうことでは、例えば二、三十代で、男性一人女性一人とか、四、五十代で男性一人女性一人とか、60代以上で男性一人女性一人とかってような、そういう公募の市民さんの選考ができたらいいかんかなと思ったりもするんです。

それと、先日の農業委員会の選定のやつとかでも意見で加えて言ってるんですけど、選定委員会、市民公募の委員の、もしかして内部だけとかっていうまた、選定委員。市民の公募の選定委員です。

○北澤直子行政経営部長 通常、他の計画においても市民委員のほうは内部の委員でもって、作文等で選定をしているのが一般的かなと思います。ただ、今、委員から御意見いただきましたように、例えばその市民委員を幅広い年齢の方であったり、属性であったりっていう方に参画いただいて、その方々が確実に参加いただけるような、ちょっと工夫というのは、今御意見もいただきましたので検討して参りたいなというふうに考えております。

○梶川文代委員 できれば、やっぱり選定委員会は内部のものだけというのは、この件のみならずやめていったほうがいいのかんかなと思ったりもするんです。

あと、選定委員は、前ももう男性ばかり、副市長と3部長で男性5人とか、そんな男性ばかりでやられたりとかもあったんで、そういう偏り的なものも見えてくるんで、選定委員の構成については、公平性を担保する、忖度あるなんて誤解も受けて済むように内部だけっていうのは避ける。そういったことも、この公募市民の選定には、気を使って考えて配慮してもらえたらかなと思います。

それと、例えば公募市民4名というのがちょっと足りないと思うので、やっぱりその辺りはもうちょっと増やされるべきやと思うんです。さっきも言った属性とか年齢とかでいうたら、たった4人じゃ賄っていけないと思うんで、その辺り今からでも変更可能ですよね、お答えください。

○吉川祐輝行政経営部次長 審査の委員の構成につきましては、今後また事業者等とも整理をしていくところではございます。御意見もいただきましたので、その辺りを踏まえまして議論を進めていきたいと思っております。

○梶川文代委員 一応満遍なく、いろんな年代、性別の方、そういう方にも直接関わってもらえるような仕組みで考えてください。

あと、審議会についてなんですけど、審議会と市議会とばつと分けられてるっていうふうには、この12ページ見たら感じてしまって、やっぱりこれを三角形にしてももらえるほうがいいんやないかなと思います。

だから、やっぱり我々市議会と、総計審議会の方々との接点とかそういうのもないのも悲しいし、もちろん傍聴して委員外議員で発言できるとかそういう形なるんならええねんけど。これはやっぱり三角形を組んでください。相互にできるような、何か。ちょっと議会としても、その審議会にお任せみたいな、そういうのもあれだから考えてもらいたい。

○吉川祐輝行政経営部次長 どうしても、市がつくる計画でございまして、市が真ん中にありながらそれぞれから意見いただくという形にはさせていただいております。三角形にした場合、審議会と市議会の関係っていうのが、我々もその辺り整理できてないところではございます。直接入っていただくという形になってないかなと思いますし、それぞれどういう形で、意見を出し合うかというところは議論の余地はあるのかなと思っておりますので御理解いただければと思います。

○梶川文代委員 以前は策定委員会に議員も入ってたし、公募の市民も入ってたというところが、市内部だけのくくりになってるんですけど、やっぱりこの策定委員会は、もう内部だけでいくっていうつもりですか、これは書き方的に。

○北澤直子行政経営部長 審議会のほうに、かつては議員の皆様にも御参画をいただいていた計画がございましたけれども、二元代表制における議決機関と執行機関の役割分担の趣旨というところを踏まえて、形を変えてきた経緯がございまして。

今、こちらの体制イメージ図でお示しをしているもののように、間に行政側がきっちりと入りまして、必要な情報を、また御意見を頂く場というものに関しましては、節目節目で御説明の場等を含めて設定して参りたいと思っておりますので、御理解いただきます

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

ようによろしく願いいたします。

○**梶川文代委員** 結局、中間見直しのとかを見ても作業部会も内部ばかり。副市長以下だと全部長が策定委員会で、作業部会が、さっきも言った八つの作業部会あるんやけど。各室長クラスがおるっていうね、言うたらこの策定委員会と作業部会っていうのがもう本当内部だけになっちゃってるんですけど。だから、ちょっと近年の今の吹田の状況でいうたら、中で決めはったことが出てきたときには変えないっていうようなところが往々にしてあったりとかもするんですけど。そこはそうじゃないんだよっていう。

だから、策定委員会とか作業部会はもちろん分かってらっしゃる現場の方たちでっていうのはいいと思うんですけど、策定委員会的にはやっぱり総計の審議会の委員さんたちとか、我々議員とかも関わっていけるような。だから、本当の意味で三角形にしてほしいのは、この真ん中の策定委員会の部分をきちっとつなげられるようなものをしていただけたらなと思うんですけど。その辺りも考えていただけたらなって思うんですけど。

やっぱり中で、もう副市長以下部長ばかりで策定しましたっていうのも、あんまり聞こえ的にはよろしくないかなというか、やはり公平に公正に、いろんな意見で決めていったっていうものがほしいなっていう、もうそれで意見的な形になるのかな。それを考えていただきたいなと思ってます。

それと、13ページのスケジュールを見てたら、いわゆる今月からということでもう始まってっていう感じなんですけど、例えばですけど今回この方針は誰がつくったんですか。

○**小柏 円企画財政室主幹** まず担当で案を作成しまして、庁内で協議を重ねて、最終的に政策会議で諮って決定をしたという流れでございます。

○**梶川文代委員** これは庁内やね。でも今年度、予算を組んではる372万円というのは、これからってやつですね。分かりました。

あと、今年度372万円で、令和9年、10年で3,018万5,000円、債務負担行為でもう予算組んではるんやけど、これ以外に例えば職員とかもずいぶん携わっていったりとかっていうような形で、かなりの費

用と労力がかかると思うんですけど、どれぐらいかかるって読んではるんですか。

○**河内僚一企画財政室参事** 人件費で試算をしますと、専属メンバーの体制は未定ではあるんですけども、前回策定時の体制を参考に試算しますと、令和8年度、9年度、10年度で、人件費で約1億2,600万円程度かかると考えております。

○**梶川文代委員** これ1億2,600万円、庁内人件費とあとこの債務負担3,000万円、言うたら1億5,000、6,000万円、この計画策定。正直、時代の流れ的に、法律でつくらなアカなかった時代と今は違うんやけど、結局のところこの計画が必要とされるのはうちの自治基本条例にあるからの的なところもあるんかとは思うねんけど、ちょっと1億6,000万円をかけてこれをつくるというのは、今ちょっと聞いてて、今更やねんけど、立ち止まれへんのかな。1億6,000万円はすごい金額やと思います。

○**竹村博之委員長** 梶川委員に申し上げます。予算の関係の審議ではないので、時間の関係もございまして、簡潔にお願いします。

○**梶川文代委員** だから正直、この計画策定が本当に必要かどうか、議会からもいろいろ意見ありましたよね。それをやっぱりもう1回再検討したほうがいいんじゃないかなと。これだけの費用がかかるっていうのもこれまで公表されてないですし、議会にも知らされてないことなんで、そういったところもちょっと検討してください。

○**吉川祐輝行政経営部次長** 委員おっしゃるように総合計画の指針として、グランドデザインとしての総合計画というのは必要だと考えております。

ただ、事務方としてもこういう大きなグランドデザインであるという計画の性質とか、あとは人件費も高騰しておりますので、計画策定に相当なコストがかかっているという現状を踏まえながら、未来永劫今のままでいいのかっていうのは、考えていかなアカかなと思ってるところでございます。

○**梶川文代委員** あと、当然これ、まち・ひと・しごととも関係するっていう、だから同時にこれを策定していくんですよ、また。その分も含めて1億6,000万ですか。

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

○河内僚一企画財政室参事 まち・ひと総合計画につ
きましても総合計画と一体的に策定を進めていき
きますので、1億6,000万円の中に含まれるとい
うことでございます。

○梶川文代委員 あと、総計の関係で、スケジュール
であったり委員構成であったりとか、概略を示して
もらってるんですけど、やっぱり同時に策定するっ
ていうのであれば、やっぱり第3期まち・ひと・し
ごと創生総合戦略についての、同じような内容が示
されててしかるべきだったんじゃないかなと思うん
です。

その辺り、いつごろ示してくれはるんですか、そ
ちの第3期まち・ひと・しごとのほうは。

○河内僚一企画財政室参事 第4次総合計画の中間見
直しのときから、総合計画とまち・ひと総合戦略を
一体的に策定をしていくということで進めていきま
して、まち・ひと総合戦略に記載している内容につ
きましては総合計画のところに大部分のところが含
まれるものになっておりまして、第5次総合計画と
第3期のまち・ひとの総合戦略につきましても、一
体的に進めていくってところを策定方針の中に
14ページのところに記載をさせていただいておりま
すので、この方向性で進めていきたいと考えており
ます。

○梶川文代委員 そしたら、11ページにあるこの体制
で両方やるって感じになるんですか。

○河内僚一企画財政室参事 総合計画のところで、こ
の策定委員会のところで中身を議論をしていきまし
て、素案を固めていきますので、その内容をまち・
ひと総合戦略のところに反映をさせていくという考
えで進めていくものでございます。

○梶川文代委員 それを持っていく策定委員会をまた
別立てであるってことやね。

○小柏 円企画財政室主幹 今のところ庁内会議につ
きましては兼ねて、同時に開催ができるように効率
的にできるようにという形で考えております。

○梶川文代委員 まち・ひと・しごと総合戦略も、内
部だけでっていう形に前回なっちゃったので、こ
れもやっぱりもっとオープンに、さっき言ったよう
な、属性とか年齢とか、そういったものも含めて、

役所の内部だけでまち・ひと・しごと総合戦略をつ
くりましてんと、創生総合戦略と、そういうものに
ならないようには、考えていただけたらなと思いま
す。お願いします。

○乾 詮副委員長 1点だけお聞きしたいことがあり
ます。

12ページの資料のところで、市議会と真ん中の市
長素案の検討というところで、行政側から市議会に
報告があって、市議会側からは意見となってるん
ですけど、もう一つの資料2のスケジュールと併せて
お聞きしたいんですけど、どのタイミングでどのよ
うな報告を頂いて、市議会がどの場面で意見を言え
るのか。その意見というのは、聞くだけなのか、反
映されて修正等が加えられるということが前提とな
るのか、この辺りのこの12ページの資料、どうい
う意図で示されてるのかっていうことでお聞きしたい
と思います。

○小柏 円企画財政室主幹 この資料のところの、当
市議会と市長の関係のところで、報告を市議会にし
て、意見をこちらが受けるというところにつきまし
ては、現状では今日開催しておりますこういった委
員会での内容を想定をしております。

そういった形で頂いた御意見を聞くだけとは考え
ておりませんで、それを踏まえてしっかり検討して
いくという形で考えております。

○竹村博之委員長 ほかに発言はありませんか。

(発言なし)

委員の発言はないようですので、これより委員外
議員の発言を受けることにします。

○五十川有香議員 2点だけ、お話を聞いてて思った
のが、吹田市のほうでも、例えばユーチューブとか
でスイタローって言ってね、総計のことを知っても
らうという努力されてるんですが、そういう努力っ
ていうのは、他市でも総計を作成されるに当たって
様々な自治体があるかと思うんですけども、吹田
市も一定スイタローという形で、いろいろ発信して
いるというところも、今も市民に知っていただい
てるかというのをどういうふうに分析していくのか
っていうのは、お答えいただけますか。あんまり正
直言うとそんなに見られているとは思えないんですけ

校正前原稿のため、正式な委員会記録ではありません。

ど、それをどう評価してるかというか、自分たちの
中で。

○竹村博之委員長 以上で、財政総務常任委員会を閉
会します。

(午前11時3分 閉会)

○吉川祐輝行政経営部次長 動画などにつきましては、
今後また検証はしていくことになるかとは思います。
どういうものが効果的かというところで、再生回数
であったりっていうのが、他市に比べてどうかとか
というのは、必要に応じて検討はする。効果がある
ということであれば、第5次総計でも同様の手法を
取るとかということは、検討していかないといけな
いかなと思います。

現状において、まだその分析等はさせていただい
ておりません。

○五十川有香議員 そういうのも含めて、他市では、
例えば公募市民とかでもすごく応募が来ている市と
かもあって、非常に関心が高いんだなあとというふう
に、私が調べた限りではそういうのがあるんですが、
総計を策定されている自治体を、現時点ではどのよ
うなところを、先例市というか、調査されていると
かがあれば教えていただきたいですし、例えば中核
市で何市がやっていて、本市としてはどこどこの
市と規模が一緒やから、その辺りを調査していると
か、そういうのがあればお答えいただきたいですし、
今後されるということであれば、どういう予定なの
か、お答えください。他市の調査の仕方ですね、視
察に行くとかいろんな方法あるかと思いますけれど
も。

○小柏 円企画財政室主幹 視察といったところまで
はなかなかちょっと行き着かないんですけども、策
定方針を今回つくるに当たっても、他市の総合計画
をいろいろ見させていただきました。

参考にさせていただくというか、今現状でチェッ
クしているところでいいますと、大阪府内の中核市
は見ております。あとは北摂市と、人口が増加して
いる市ですね、これは全国的に探しまして、その部
分の総合計画というものも見させていただいてると
ころです。

○竹村博之委員長 ほかに質問はありませんか。

(発言なし)

なければ、以上で質疑を終了します。